

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

第23回全国障害児学級・学校学習交流集会

第23回全国障害児学級・学校学習交流集会 in 愛知が、1月6日(土)、7日(日)に開催されました。1日目の全体会のオープニングでは、手話ロックバンドの演奏、記念講演では竹沢清さんの話がありました。2日目は、てんご盛り講座、文化パザール、フィールドワーク、基礎講座、実践分科会が行われました。

1日目は会場参加とオンライン参加のハイブリット形式、2日目は会場のみで行われ、2日間で全国からのべ900人が参加し、大障教からは26人が参加しました。

聞こえなくても音楽は楽しむことができる！

オープニングは手話ロックバンドの「BRIGHEEY ES super dupe」による演奏が行われました。愛知県立名古屋聾学校の生徒を中心に結成し、35周年を迎えた4人組バンドで、

子どもの悩み・ねがいに出会って 私たちは教師になつてく



講演する竹沢清さん

竹沢清さん(元愛知県ろう学校教員)による記念講演が行われました。竹沢さん

んは、子ども理解の原則として、「問題行動」を発達要求ととらえること、わが身に引きよせて共感的理解(自分の中に弱さがあればあるほど、いつそ人間を深くとらえることができる)を心がけることが大切だと語りました。そして、「私

たちは人間を見る目の育ちに気づいて、子どもたちは見えてこない、実践の「勘所」を探ることが大切で、すぐに結果を求めようとしたら、できるようにしようとしたりするなど、花や実を目を奪われるのではなく、幹を育てる発想で実践していくことが大切だと述べました。

また、愛知県での教育権保障の歩みについてふれ、「1972年の愛知県の不就学の子どもは1000人を超えていた。6歳から13歳まで体重が増えなかった西尾由美子さんは、2週間に1回、30分の訪問を繰り返していく中で、生活にメリハリがつき、体重が2倍に増えた。2週間のうちたった30分でしたが、そこには命を強める働きかけがあったのです」と語りました。そして、1979年に養護学校義務制がスタートし、高等部希望者全員入学の運動やマンモス校解消の運動についてもふれました。障害児教育の歴史は、「子ども・親・関係者の願いを軸

に」「運動によって」「教育内容と制度を同時に追求」して作りあげてきた、誇りある歴史だと述べました。さらに、1つひとつの峰を越えてきたからこそ、今の困難・課題があると語りました。また、竹沢さんは日々の連絡帳の大切さについて、連絡帳は「連絡のノート」ではなく、「子ども発見(心が動いた瞬間)」の記録であると強調しました。最後に、専門性についてふれ、「私たちの専門性は子どもも理解できないこと、一人でするのは難しいけれど、集団だとできること、教員一人ひとりで見れば、弱点だとしても、教職員集団で見れば、持ち味・個性になる」と、そして、「小さな子ども変化が見える時、私たちは希望を持ち続けることができる。小さな事実の中に大きな人間的な価値を見つけないと、子どもの事実が励まされて、私たちは教師になつていく」と結びました。

参加者の感想



○竹沢先生が実際のエピソードを交えて話して下さったので、状況がとても想像しやすく、楽しんで聞くことができました。そんな数々のエピソードを聞いて、自分はまだまだ子どもたちの目線、立場になって物事を見ることができていないなと痛感しました。けれど、それはのびしろがあるということでもあるので、これからもっと子どもたちの目線、立場になって物事を見るように意識していきたいです。(枚方支援分会 井上翔太)

裏面に続く

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のふしぎ

「女性を無駄遣いする国は、ゆつくり一流に落ちていく」。これは、社会学者の上野千鶴子さんの言葉。

「ジェンダー平等」は、この数年で大きな変化を迎えた。「男女の格差是正」を求める運動は、企業に賃金格差の公表を実現させた。それにより、大企業ほど格差が大きいことがわかった。自衛隊や芸能界における性暴力に対して、当事者の勇気ある告発が世論を広げ、日本社会に大きな変化をもたらした。

「個人の尊厳」を求める運動は、国民世論となり前進を促しているが、日本は、世界経済フォーラムが発表するジェンダーギャップ指数で、先進国最低水準。その順位、164か国中125位。特に、政治と経済分野の格差が顕著だ。

それだけではない。日本は、人権に関しても後進国だ。国連の人権理事会の審査によると115ヶ国から計300個の勧告を受け、とりわけ、「性と生殖に関する健康と権利」に関して、24の加盟国から36個の勧告を受けている。話を戻そう。現在、日本の非正規ワーカーは2000万人超。その7割が女性だ。これは、財界とその意向を受けて政治を進めてきた政権が意図的に作りだしたものだ。

問題の根底には、「男女平等」を口にしながら、自らの利益を最優先させる財界・大企業の姿勢と、明治時代の「家父長制度」、男尊女卑の考え方に固執し続ける価値観がある。

「女の人は無理して結婚しなくていいという人が増え嘆かわしい」と主張し、少子化の責任を女性に押し付ける国会議員、「LGBTカテゴリーに生産性がない」との暴論を吐く議員などは、その典型だ。(久)

カジノノよりコロナ対策! 福祉・医療・教育の充実を

第33回ヒューマンウェーブ集会に約3000人が参加

第33回ヒューマンウェーブ集会が、12月8日、「障害者の日」(12月9日)に合わせて大阪城公園教育塔前広場で開催されました。新型コロナウイルスの影響で、2020年度から昨年度まではオンライン開催だったため、現地で集会をおこなうのは4年ぶりでした。再会を喜ぶ参加者の声があちこちで聞かれました。オープニングは、障害当事者の青年たちが歌とダンスを披露して集会がスタートしました。集会には障害当事者・家族・関係者が約3000人参加しました。後日1月24日に、「ヒューマンウェーブ個人請願」提出行動をおこない、各団体の代表約200人が参加しました。

障害者の権利の拡充・発展をめざして運動をすすめよう

基調報告をおこなった大障教の荒谷書記長(大阪の障害児教育をよとする全事務局長)は、岸田内閣は防衛費を43

兆円に倍増し、保育・教育・医療・福祉などの暮らしの施策に振り向けるべき財源を武器等の購入に振り向けようとしている。また、万博の会場建設費は、当初計画の約2倍の2350億円、基盤整備費用も2倍以上の7500億円

あることを訴え、「障害者権利宣言、そして障害者権利条約の精神に反する、これらの実態を改善・克服していく

会場からのリレートークに大きな拍手

リレートークでは、各団体から切実な要求が語られ、大阪の障害児教育をよくする会

にものぼることについて、これ以上税金をつぎ込むことは許されないと述べました。教育分野について、府立支援学校では、年々児童生徒数が増加し、今年度は300名を越える知的障害支援学校が14校もあり、「過大・過密」が深刻化し、人権侵害ともいえる実態が進行している実態が

に盛り上がりました。集会後参加者は、大阪府庁前へ移動し、プラカードを掲げて府庁を取り囲み、「障害児教育の充実を!」「支援学校の『過大・過密』解消を!」「くらしの場を整備して!」

「職員さん増やして」とつぎつぎにひと言発言がおこなわれ、会場はおおい

なごみさんの要求をコールし、参加者の力強い声が大きくひびきわたりました。

全国学級・学校学習交流集会in愛知

参加者の感想(表面より続き)

○オープニングの「BRIGHTYES super-duper」の手話ロックバンドは、講師の時、聴覚支援学校で音楽の授業をしていた時を思い出しました。「音楽の世界に飛び込みたい」と言っていた生徒たちのその先を見ることができたと思いました。素晴らしいロック魂でした。竹沢先生の講演を久しぶりに聞くことができ、専門性を高める実践の主体者になりたいと改めて感じました。竹沢先生の言葉で言えば「人間のめんどくささを見つける」という言葉が印象に残り、今の生徒たちを思い出しながらこの仕事の興味深さを感じて聞くことができました。愛知の管理主義教育と組合との闘いの歴史にも驚きました。全国の仲間や大阪の仲間の交流も楽しむことができました。2日目は手話ロックバンドと共に手話歌を学び、発達の遅れと授業づくりの分科会に参加し青年のレポートを中心に今の教育は何に縛られているのかなどを論議し、学びの多い2日間となりました。



オープニングの手話ロックバンド「BRIGHTYES super-duper」

(東住吉支援分会 小島良平)

○全日程での参加は初めてでしたが、たくさんのお話が聞けて充実の2日間になりました。特に1日目の竹沢先生のお話は、今の自分に当てはまることが多く、聞いて良かったのと頑張る力になりました。

(四條畷校分会 辻田剛士)



竹沢先生の話に聞き入る参加者

直接請願行動に各団体から参加、1470筆の請願書を提出

後日、1月24日に大阪府庁内で「ヒューマンウェーブ個人請願」提出行動がおこなわれました。オンライン参加も含めて、各団体の代表が約200人参加しました。参加者は、ひとりずつ「カジノノよりコロナ対策、福祉・医療・教育にかかわる施策を充実してください」との表題の請願書を、大阪府の担当者に手渡ししました。大阪の障害児教育をよくする会からも岩田会長が参加し、支援学校の実態を訴え、知的障害支援学校の新校整備を求めました。また、会場に來られない方からの発言を動画にまとめ、ヒューマンウェーブ集会の様子と合わせて、府の担当者にみてもらいました。個人請願は、全体で1470筆、大障教では329筆集約し、提出しました。



基調報告を行う荒谷書記長

障害のある人の権利を守り、あたたかい大阪を! カジノノよりコロナ対策! 福祉・医療・教育に関わる施策の充実を! 第33回ヒューマンウェーブ集会